

NPO法人 龍ヶ崎ゲヴァントハウス
春の特別講演会 ～金子建志氏を迎えて～
“指揮の見方”
～過去の大指揮者の棒はなぜ判り難いのか～

NPO法人 龍ヶ崎ゲヴァントハウスでは、これまで、多くの著名な講師の方々をお迎えしてまいりましたが、今回は2023年春の特別企画として、音楽評論家・音楽学者・指揮者として著名な金子建志氏をお迎えし、「指揮の見方 ～過去の大指揮者の棒はなぜ判り難いのか～」と題して特別講演会を行います。

金子氏は現在、「レコード芸術」誌の交響曲部門の新譜月評を担当、2022年度の「第60回レコード・アカデミー賞」では選定委員長という重責をこなされました。また、古いエアチェック・ファンであればNHK・FMの「海外クラシックコンサート」、「ベスト・オブ・クラシック」や、N響定期演奏会生中継での名解説を思い出される方も多いことでしょう。

御多忙の中、今回、待ち望んでいた願ってもない講演会が実現しました。プロジェクターを使った映像を写しながら解説していただくのは初の試みです。期待の膨らむ特別な時間をお楽しみください。



日時：2023年4月15日(土) 午後2時00分～午後4時30分(休憩15分)

場所：龍ヶ崎市 市民活動センター 2階大会議室

講師：金子建志氏(音楽評論家・音楽学者・指揮者)

テーマ：“指揮の見方” ～過去の大指揮者の棒はなぜ判り難いのか～

《金子建志氏・略歴》

1948年千葉県生まれ。1966年東京芸術大学音楽学部楽理科入学。在学中、音楽理論を柴田南雄に師事し、指揮法を渡邊暁雄や高階正光に師事。1970年3月、同大卒業。この後、指揮法を齋藤秀雄に師事。1985年、千葉フィルハーモニー管弦楽団結成。同楽団の常任指揮者として活動する他、市川交響楽団や世田谷交響楽団、19世紀オーケストラ、アンサンブル花火などの指揮者としてアマチュアオーケストラ活動にも関与。

『音楽現代』、『レコード芸術』、『朝日新聞』の新譜月評を担当。NHK-FMの「海外クラシックコンサート」や「ベスト・オブ・クラシック」、ミュージックバードのクラシック音楽番組で解説を担当。2022年度「第60回レコード・アカデミー賞選定委員長(交響曲部門選定委員)」。常葉学園短期大学音楽科教授。武蔵野音楽大学非常勤講師。著書に「ブルックナーの交響曲：こだわり派のための名曲徹底分析」(音楽之友社)、「マーラーの交響曲：こだわり派のための名曲徹底分析」(音楽之友社)、「200CDオーケストラの秘密」(立風書房)他多数。

講演内容(休憩15分)

ベートーヴェンの「コリオラン」序曲、交響曲第7番の第1楽章冒頭、第2楽章冒頭を実際にピアノを使いながらの解説。

シューマンの交響曲第4番、モーツァルトの交響曲第39番第1楽章、歌劇「フィガロの結婚」、シューベルトの交響曲第8番「ザ・グレート」等を取り上げ、フルトヴェングラー、カラヤン、バーム、ストコフスキー、チェリビダッケ、カルロス・クライバー、ショルティ等、その指揮ぶりをプロジェクターで写し、解説していただく予定です。また、指揮法の実技を実施致しますので、参加されたい方はお申し出ください。